

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 変化の激しい社会の中で、豊かな感性、確かな学力、あくなき探究心をもって生き抜く子どもたちを育てる学校
- 1 学びに向かう意欲を高め、自己実現に導く教育活動を展開する。
 - 2 確かな信頼関係を基盤に、豊かな人間力を育む教育活動を展開する。
 - 3 先進的・先導的な教育実践に、教育センターと一体となって取組みを進める。

2 中期的目標

- 1 豊かでたくましい人間性のはぐくみ
- (1) 多様性を認める人間関係をはぐくむ活動の充実を図る。
- ア 誰もが個性や趣向を肯定され、安心して学校生活が送れる居場所としての集団づくりを進める。
 - イ 人権教育を基盤とした生徒指導と細やかな生徒観察により、課題の早期発見に努める。
 - ウ 情報リテラシーの育成を図る。
- ※探究ナビや人権HRのさらなる充実を図ることで、学校教育自己診断（生徒7）で「学校には自分の居場所がある」の肯定的回答率（R3：85.5%、R4：85.3%、R5：85.8%、R6：85.3%）を令和8年度まで80%以上を維持する。
- (2) 安全で安心な学びの場とするための環境整備を行う。
- ア すべての教職員が危機意識を持ち、危険予知に関する知識と緊急事態への対応能力を向上させる。
 - イ 生徒が気軽に相談できる環境を整備する。
 - ウ いじめを見逃さない教職員集団を作る。
 - エ 中学校等との連携を進め、教育相談体制のさらなる充実を図る。
- ※情報共有を密にするなど、きめ細かな相談支援体制をさらに充実させることで、学校教育自己診断（生徒16）で「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定的回答を（R3：74.6%、R4：72.6%、R5：80.4%、R6：78.5%）を令和8年度まで80%以上を維持する。
- ※保護者のニーズを踏まえた情報発信を行い、学校教育自己診断（保護者9）で「学校は、生徒をきめ細かく、多面的にサポートしている」の肯定的回答を（R3：70.4%、R4：76.3%、R5：78.4%、R6：74.3%）を前年度比で増加させ、令和8年度には80%以上とする。
- 2 確かな学力の育成と授業改善（教育力向上と進路実現）
- (1) 教育センターと一体となった教育実践の研究
- ア 電子黒板と1人1台端末を活用した授業についての研究・実践を重ね、成果を発信する。
 - イ 観点別学習状況評価についての研究・実践を重ね、成果を発信する。
 - ウ 授業研究やカリキュラムマネジメントにおけるアドバイザーとして教育センターのリソースを活用する。
- ※上記アイウに関する校内研修において、教育センターの指導主事から指導助言を得るなど協働で取り組み、研究を重ねる。
- ※授業公開週間をさらに充実させ、公開研究授業及び研究討議を複数回実施し、その成果を発信する。
- (2) 基礎学力の定着をめざした授業研究・改善への取組みとその成果の発信
- ア 知識・技能の活用を図り、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を育む。
 - イ 学びを活かそうとする意欲の向上を図る。
 - ウ 読解力の育成・充実を図る。
- ※学校教育自己診断（生徒11）で「授業はわかりやすく、教え方に工夫してくれる先生が多い」（R3：71.4%、R4：68.6%、R5：78.7%、R6：74.5%）を前年度比で増加させ、令和8年度まで80%以上をめざす。
- (3) あくなき探究心の育成
- ア 教科横断型である探究ナビを本校教育活動の軸と位置付け、活用型の授業に取り組む。そして、探究ナビ発表大会を実施し、探究活動の充実とその成果を発信する。
 - イ 全教科において、「社会人基礎力」の育成を意識した授業実践を行う。
- ※学校教育自己診断（生徒13）で「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会を設けるなど、学習形態に工夫がされている」（R3：81.6%、R4：80.0%、R5：84.6%、R6：86.4%）を令和8年まで80%以上を維持する。
- ウ 進路指導を充実させる中で、自ら学ぶ生徒を育成する。
- ※学校教育自己診断（生徒15）で「学校の教育活動の中で、将来の進路や生き方について考える様々な機会がある」（R3：89.0%、R4：86.6%、R5：87.6%、R6：83.6%）を、令和8年度以降も80%以上を維持する。
- ※3年間を見通した進路指導を着実に実行することにより、4年制大学の進学者率上げ、令和8年度には130名以上とする。
- （R3：126名、R4：126名、R5：95名、R6：107名）
- ※令和4年度、「探究図書館を創ろう」が学校経営推進費支援校に決定。評価指標として、図書館の来館者数を1000名以上（R3：305、R4：355、R5：1079、R6：3151人）とし、利用書籍の統計変化を探るとともに、学校教育自己診断（生徒12）で、「講義室、実習教室、探究図書館等、HR教室以外で探究的な教育活動が行われている」の肯定回答率（R5：80.2%、R6：80.9%）を令和8年度まで80%以上を維持する。また、大阪府教育センターフォーラム等での成果発表を行う。
- 3 「チーム教セン」による新しい課題への挑戦（支え合い高め合う組織の実現）
- (1) 広報活動の充実と地域に開かれた学校をめざす。
- ア 近隣の中学校約50校を訪問するとともに、ホームページ等を活用した広報活動を充実させる。
- （R3：50校、R4：53校、R5：50校、R6：55校）
- イ 近隣中学校との交流を推進し、中高教員相互の授業力の向上に繋げる。

(2) 生徒の自主的な活動を充実させる ア 生徒会を中心に、生徒が主体的に行う体育大会、文化祭等の行事を充実させる。 (3) 校務の効率化と働き方改革の推進 ア 全校一斉定時退庁日及びノークラブデーの活用をさらに促進し、勤務時間管理及び健康管理を徹底させる。 イ 超過勤務時間が月 80 時間を超える教職員を年間で、10 名以下をめざす。(R3：33 名、R4：28 名、R5：11 名、R6：13 名) ウ タブレットの活用によりペーパーレス化を推進することで職員会議等の時間短縮を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
生徒の回答 24 項目のうち 14 項目において肯定的回答が増加したことは、これまでの取組みの成果であると言える。増加率最大 9.7%の「学校生活を通して自信をもつことができるようになった」では、質問の仕方(自分のことで誇れるところがある)をわかりやすい文言に変更したことが大きな要因と考える。逆に、「授業はわかりやすく、教え方に工夫をしてくれる先生が多い」が最大-4.2%の減少であり、この項目は教員の回答との乖離があるので、生徒の学びと教員の方向性がマッチするように、引き続き、校内研修等を通じて「わかったと思える授業づくり」に組織的に取り組んでいく。 保護者の回答では、17 項目中、11 項目で否定的回答が増加する厳しい結果となった。特に「学校生活が充実している」が最大-7.0%、続いて「PTA 活動が活発」が-6.7%であった。授業や行事、HP 等、教育活動全体を通じて学校の魅力を高めていく必要がある。「授業がわかりやすい」と「行事に楽しそうに参加」がここ2年で約 10%向上してきているものの、これらが「学校生活の充実」に結びついていないのが課題である。要因の一つに、自由記述にある衛生面や生徒指導、施設・設備の老朽化等が影響していると考えられる。 教員の回答では、19 項目のうち、13 項目において肯定的回答が増加した。特に「生徒が意欲的に取り組む授業をめざして、日常的に創意工夫」が最大 10.5%増加し、経年変化を見ても「教職員間でお互いの授業見学や意見交換」がここ3年間で約 20%向上している。授業研究委員会を中心に校内研修を通じた日々の教材研究に取り組む学校風土ができていると言える。また、「近隣の学校との交流」も3年間で 20%以上向上した。地域のお祭りやイベント、東住吉支援学校との音楽交流等、コロナ明け後、着実に進めてきた結果である。全体的に見て、生徒と保護者よりも教員の肯定的意識が高い。生徒と保護者のニーズを常に的確に把握しながら魅力ある教育活動を今後も進めていく。 【生徒】 ○肯定的評価が増加した主な項目 ・学校生活を通して、自分の中で自信をもつことができるようになったと思う。(58.7→68.4) +9.7 ○肯定的評価が低下した主な項目 ・授業はわかりやすく、教え方に工夫をしてくれる先生が多い。(78.7→74.5) -4.2 ・学校の教育活動の中で、将来の進路や生き方について考える様々な機会がある(87.6→83.6) -4.0 【保護者】 ○肯定的評価が増加した主な項目 ・この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。(65.7→70.8) +5.1 ○肯定的評価が低下した主な項目 ・子どもは、学校生活が充実していると感じているようだ。(87.3→80.3) -7.0 ・学校のPTA活動は、活発に行われている。(76.9→70.2) -6.7 ・学校の部活動は、活発に行われている。(79.0→73.7) -5.3 ・学習環境面において、学校の施設・設備は満足できる。(65.7→60.5) -5.2 【教職員】 ○肯定的評価が増加した主な項目 ・全ての生徒が意欲的に取り組む授業をめざして、日常的に創意工夫。(89.5→100.0) +10.5 ・校長はリーダーシップを発揮し、教職員の意見が反映された学校運営に努めている。(81.6→87.5)+5.9 ・教職員間でお互いの授業を見学する機会があり、授業について意見交換するなど自律的な風土がある。(89.5→95.0)+5.5 ○肯定的評価が低下した主な項目 ・学校は全ての教育活動において、人権を尊重した教育がなされている。(97.4→90.0) -7.4	第1回(6/17) ○授業改善について ・生徒が授業の「ゴール」をどの程度理解しているのか。ゴールを示すことで、やることわかるはず。 ・問いを立てることができたら、教科横断的なつながりができると思う。 ・高校の時「なぜ公式を覚えるの」と教職員に質問した時に「とにかく覚えなさい」と言われたが、今の教育センター附属高校では教師と生徒が一緒になって考える環境があり、うらやましいと感じた。 ・生徒手帳について、日々の授業で毎回使用させ、問いを立てられるようにできれば、理想的である。 第2回(11/11) ○授業改善について ・ここまで授業に対して学校全体で取り組んでいる例は他には見ない。 ・昔は立ち止まって考える授業がなかったが、本校ではそのような授業がされている。今の時代に求められている授業がされている。 ・生徒を信用することで良い意見が出やすい環境づくりができている。 第3回(2/20) ・「いじめ対応の体制が整っている(教員の学校教育自己診断)」が100%なので、教育相談体制が充実している証である。 ・図書館の活用率の数値がもっと上がってきててもよいと思う。[学校教育自己診断(生徒)で63%] ・図書の寄贈や、図書委員の活用方法、別棟で図書館がある等、他校も参考にされたらよい。 ・小さなことだが、来客用スリッパを新しく刷新することで広報につながる。現在のものは、薄くて古いので。 ・PTA 活動に苦勞しているのが現状である。いつも限られた同じメンバーで運営している状況である。 ・保護者はPTA 委員には入っているが、行事等の出席率が低いことがアンケートの結果に出ている。(PTA 活動が活発 70%) ・授業研究は立派な成果が出ているが、大変ではないのか。 →経験年数の浅い教員の育成を含めて、授業力向上は教員としての軸である。負担軽減も考えて次年度計画する。 ・「特色ある教育活動」が81%と、この学校でしか学べないことがある証なので自信をもってよい。 ・探究を通して、コミュニケーション能力の育成や社会で対応する力等、探究のよさを中学生に伝えることが大切である。 ・学生時代にファシリテーションを学んだことで、将来、社会に出てリーダーになってほしい。 ・探究ナビ 2.0 は、授業研究委員会の先生と生徒が一緒になって学びをデザインしていく期待を感じる。ぜひ実現してほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 6 年度値]	自己評価
1 豊か でた くま しい 人間 性の はぐ くみ	(1)多様性を認める人間関係のはぐくみ ア)居場所としての集団づくり	(1)多様性を認める人間関係のはぐくみ ア) より良い人間関係の構築をめざし、クラスづくりの導入となる活動を全教員が指導できるようにするための「クラス開き研修」を全教員参加で年度当初に実施する。また、授業研究委員会を中心に授業改善を行い、授業等において、積極的に発表したり、意見が言いやすい雰囲気づくりをめざす。	(1) ア) ①学校教育自己診断(生徒7)で「学校には自分の居場所がある」の肯定率 80%以上を維持する。[85.8%] ②学校教育自己診断(生徒13)で「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会を設けるなど、学習形態に工夫がされている」の肯定率 80%以上を維持する。[84.6%]	ア) ①クラス開きの校内研修実施(4/4)「クラスには自分の居場所がある」の肯定率 85.3%(◎) ②「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定率 86.4%(◎) 今年度の授業研究委員会主催の研修を経て、教員の意識にさらなる変化が見られるので、方針を継続する。
	イ) 課題の早期発見	イ) 支援の必要な生徒の情報を、担任会、教育相談委員会、教育支援委員会を週1回開催し、情報を密に共有し、課題が深刻化しないように努める。	イ) 学校教育自己診断(生徒16)で「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率 80%以上を維持する。[80.4%]	イ) 「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率 78.5%(△) カウンセリングマインド等、教員への研修を継続する。
	ウ) 情報リテラシーの育成	ウ) あらゆる教育活動を通して、適切な情報の収集、発信、活用について啓発を行い、情報リテラシーを高める。	ウ) 人権教育委員会から SNS 関連に係る注意喚起等の啓発活動を定期的に行うことで、SNS 等、ネット上での課題事象の減少に努める。併せて、課題事象発生時の適切な対応についての校内研修を複数回行う。	ウ) SNS 等の課題事象が断続的に発生している。SNS 対応に特化した校内研修(1回)を実施するとともに、全教科において、情報リテラシー教育をより強力に実施する。(○)
	(2)安全で安心な学校生活のための環境整備 ア)危険予知及び緊急事態への対応能力の向上	(2)安全で安心な学校生活のための環境整備 ア) 現実的な災害を想定した訓練の実施や、感染症拡大による臨時休校等の緊急事態に備え、連絡及び教育的な支援体制(ICT の活用)を整える。	ア) 学校教育自己診断(生徒22)で「火災、地震、台風、大雨等の防災や防犯について緊急時の行動を知らされている」の肯定率 80%以上を維持する。[82.6%]	ア) 「防災や防犯について、緊急時の行動を知らされている」の肯定率 83.7%(◎) 実際の災害を想定した避難訓練の実施することで、「自分ごと」と捉えさせる。
	イ) 相談できる環境の整備	イ) ゆるりすとルーム(何でも相談室)を毎日昼休みに開設と教科の準備室や職員室付近に机や椅子を設置し、気軽に質問や相談ができる場を拡充する。	イ) 学校教育自己診断(生徒5)で「学校で、自分は大切にされていると感じることがある」の肯定率 73%以上を維持する。[72.1%]	イ) 「自分は大切にされていると感じることがある」の肯定率 74.6%(○) 生徒への言葉かけ等、教員研修を継続する。
	ウ) いじめの未然防止・早期発見・早期対応のための教職員集団	ウ) アンケート等を効果的に活用し、課題把握に努め、教育支援委員会等により教職員間で情報を共有し、深刻な問題に発展しないよう未然防止に努める。	ウ) 学校教育自己診断(教職員13)で「いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている」の肯定率 90%以上を維持する。[94.7%]	ウ) 「いじめが起こった際の体制」の肯定率 100%(◎)引き続き、未然防止、早期発見、早期対応の重要性の共通認識を深める。
2 確 かな 学 力 の 育 成 と	エ)教育相談体制及びガイダンス機能の充実	エ) 相談しやすい体制づくりを進めるとともに、ゆるりすとルームの開設案内のプリントを月1回発行する。また、人権教育の校内研修の中で、相談体制を充実させるための内容を組み入れ、教員の指導力の向上を図る。	エ) ①学校教育自己診断(保護者9)で「学校は、生徒をきめ細かく、多面的にサポートしている」の肯定率 80%以上をめざす。[78.4%] ②学校教育自己診断(生徒18)で「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定率 80%以上を維持する。[83.1%]	エ) ①「生徒をきめ細かく、多面的にサポート」肯定率 74.3%(△) ②「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応」肯定率 82.6%(○)引き続き、教員研修を実施し、意識改革を続ける。
	(1)教育センターと一体となった教育実践の研究	(1)校内研修や教科会議に指導主事に参加してもらい、一体となった授業研究や授業実践を行う	(1)	
	ア)電子黒板と1人1台端末を活用した授業についての研究・実践	ア) 電子黒板と1人1台端末の環境の下での授業について、授業研究委員会を中心に実践研究を進める。	ア) 学校教育自己診断(生徒14)で「タブレットやプロジェクタなどの ICT 機器が教育活動全般で効果的に活用されている。」の肯定率 85%以上を維持する。[87.1%]	ア) 「コンピュータやプロジェクタなどを使った授業がある」の肯定率 87.4%(◎)授業見学等を通して、ICT の使い方に広がりが見られる。
	イ)観点別学習状況評価につ	イ) 観点別学習状況評価の本格実	イ) 各教科における課題を洗い出し、情	イ) 授業研究委員会が校内研修を3回実施。(◎)

大阪府教育センター附属高等学校

授業改善・教育力向上と進路実現	いてのさらなる研究・実践 ウ)教育センターのリソースの活用	施にあたり、本校の状況に合わせた評価指針を充実させる。 ウ) 教育センター大ホールを授業の成果発表の機会として活用したり、授業に関するアドバイザーとして指導主事を活用する。	報共有を行い、課題解決に向けての校内研修を複数回実施する。 ウ) 月1回教育センターと会議。合同での校内研修を3回実施し、指導主事からのアドバイスや情報提供を受ける。	ウ) 教育 C 幹部との定例の会議6回、指導主事との合同校内研修3回実施。今後も教育 C との連携を推進していく。(○)
	(2)基礎学力の定着をめざした授業研究・改善への取り組み ア)知識・技能の活用を図り、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成	(2)基礎学力の定着をめざした授業研究・改善への取り組み ア) 授業研究委員会、教科会議において、学力生活実態調査や実力テスト等の結果を分析し、学んだ知識・技能の活用を想定した授業づくりを進める。	(2) ア) ①生徒への授業アンケートで「授業内容に興味・関心を持つことができたと感じている。」の全平均が、前年比を維持する。[3.17] ②授業アンケートで「知識や技能が身に付いたと感じる」の全平均が、前年比を維持する。[3.22]	(2) ア) ①「授業内容に興味・関心を持つことができたと感じている。」[3.25](◎) ②「知識や技能が身に付いたと感じる」[3.29](◎) 引き続き、授業研究委員会をさらに充実させ授業研究、改善に取り組む。
	イ)学びを活かそうとする意欲の向上	イ) 授業研究委員会(各教科から1名選出)を中心に、学校としてつきたい力、各教科でつきたい力、課題等を洗い出し、全教員で共有しながら学校全体としての授業力の改善と向上を図る。	イ) 学校教育自己診断(生徒10・11) 「興味・関心が高まる授業がある」の肯定率73%以上[72.4%]「授業はわかりやすく、教え方に工夫してくれる先生が多い」の肯定率80%以上[78.7%]をめざす。	イ)「興味・関心が高まる授業がある」肯定率71.9%(△)、「教え方に工夫してくれる先生が多い」肯定率74.5%(△)授業研究委員会を中心に生徒のニーズを分析し、授業の進め方について、さらに分析を進める。
	ウ) 読解力の育成・充実	ウ) すべての教科で、読解力の育成をめざした取り組みを実施する。読書等、文章を読むことを啓発するとともに、新たに設立した探究図書館を、生徒自らが個別最適な学びや協働的な学びをデザインする学習活動を展開する場とする。	ウ) 図書室の利用者数(授業での利用を除く)を前年度より増加させる。[1079] 学校教育自己診断(生徒12)で、「探究図書等で探究的な教育活動が行われている」肯定率80%以上を維持する。[80.2]	ウ) 図書室の利用者数[3151人]と大幅に増加(◎)、 図書館利用に対する肯定率63.0% 「探究図書等で探究的な教育活動が行われている」肯定率80.9%(○) 今後も昼休みの放送、図書館だよりの発行、図書館イベントなどの広報を充実させる。
3 チ ーム 教	(3)あくなき探究心の育成 ア) 探究活動の充実と再構築	(3)あくなき探究心の育成 ア)本校教育活動の軸と位置付けている探究ナビをはじめとする探究活動を充実させ、その成果を発信するとともに、3年間を見通した指導計画をさらに充実させる。	(3) ア) 学校教育自己診断(保護者11)で「将来の進路や職業などについて適切な情報提供や指導を行っている」の肯定率80%以上を維持する。[86.3%]	(3) ア)「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」85.6%(◎)
	イ)「社会人基礎力」の育成	イ) 全教科で「社会人基礎力」(実社会で必要かつ役立つ力)の育成を意識した内容を授業に取り入れ、成果を検証する。	イ) 学校教育自己診断(生徒15)で「将来の進路や生き方について考える様々な機会がある」の肯定率80%以上を維持する。[87.6%]	イ)「将来の進路や生き方について考える機会がある」83.6%(◎) 探究ナビやGSの授業を通して、考える機会をさらに与える。
	ウ) 自ら学ぶ生徒の育成と希望進路の実現	ウ) 自ら学ぶ生徒を育成する。授業以外での学習習慣をつけさせるとともに、学ぶ意欲を喚起し、生徒の進路実現を図る。また、一人ひとりの希望進路を実現するため、将来を見据えた科目選択を含む教育課程を編成するとともに、系統的な進路講習等の個別の支援を充実させる。	ウ) ①英語検定、数学検定の受験者数を前年度を上回る。[英検59名、数検5名受験]②1年からの系統的な進路HRを実施(年間3回以上)及び系統的な進学講習の開催(長期休業期間合計4回)することで、各進学先の合格者数を前年比で上回る。 *R5[進路決定状況/R6 3月31日現在] ・4年制大学 [95] ・短期大学 [18] ・専門学校 [53] ・公務員 [2] ・就職内定者 [12]	ウ) ①英検、数検受験者数 [英検52名、数検8名受験](△) ②進路HR 1年10回、2年6回、3年12回(◎) ・進学講習(年間を通じた実績) 1年13回、2年19回、3年170回(◎) ・科目選択説明会(各学年2回実施) ・進路別説明会(各学年2回実施) *3/24 延べ合格者数 ・4年制大学合格者 197名 ・短期大学合格者 34名 ・専門学校合格者 60名 ・公務員 9名 ・就職内定者 11名
	(1) 広報活動の充実 ア) 地域に開かれた学校	(1) 広報活動の充実 ア) 広報委員活動を活性化させ、学校説明会、体験入学会、ホームページ	(1) ア) 近隣中学校50校を全教員で分担し訪問することで、学校説明会への参加人	(1) ア) 近隣中学校55校訪問(◎) 学校説明会への参加人数(△) [第1回170、第2回257、

大阪府教育センター附属高等学校

セン ン に よ る 新 し い 課 題 へ の 挑 戦		ジ等を活用した広報活動のさらなる充実を図る。	数を増やす。[第1回 206名、第2回 228名、第3回 180名]	第3回 175] 計 602 名
	イ) 近隣中学校との交流	イ)近隣中学校を全教員で分担し訪問、広報するとともに、本校の授業公開週間の開催を近隣中学校へ広報することで交流を図る。	イ) 学校教育自己診断(教職員 16)で「近隣の学校などとの交流の機会を設ける等、地域とのつながりを大切にした取り組みを進めている。」肯定率 68%以上をめざす。[65.8%]	イ) 学校教育自己診断で「近隣の学校などとの交流の機会を設ける等、地元とのつながりを大切にした取り組みを進めている」の肯定率 65.0% (△)
	(2) 生徒の自主活動の充実 ア) 生徒会活動の活性化	(2) 生徒の自主活動の充実 ア) 生徒会を中心に、生徒が主体的に行う体育大会、文化祭等などの行事と部活動を充実させるために、生徒会活動や部活動の活動の様子や戦績の広報を充実させ、意欲の向上を図る。	(2) ア) 学校教育自己診断(生徒 19)で「校外学習、体育大会、文化祭等の学校行事は充実して楽しい」の肯定率 77%以上 [76.3%]、(生徒 20)「この学校には、魅力ある部活動があり、活動が盛んである」の肯定率 75%以上[74.5%]をめざす。	(2) ア) 学校教育自己診断で「学校行事は充実して楽しい」の肯定率 75.6%(△) 「この学校には、魅力ある部活動がある」の肯定率 75.9% (○)
	イ) 校内美化運動の充実	イ)保健委員を中心に学年団と連携し、定期清掃、大掃除等を徹底し美化運動を充実させる。	イ) HR 教室等、学習環境を美しく保つことをめざし、定期的にチェックする体制を充実させる。毎週 1 回保健委員が各教室の清掃状態を点検し、評価指標に基づいて、点数化することで意識を高める。年度末には、学年別に優秀クラスを表彰。	イ) 美化運動を定期的実施できたことで、学習環境が整備された。(○)
	(3)校務の効率化と働き方改革の推進	(3)「府立学校における働き方改革にかかる取り組みについて」に沿って業務の見直し・効率化を図る。	(3)	(3)
	ア) 教職員の意識改革 イ) 校務の効率化	ア)全校一斉定時退庁日及びノークラブデーの周知徹底を図るとともに、管理職による指導、助言を適宜行う。 イ) ・管理職から、学校部活動に関する方針(ガイドライン)を年度当初に配付・説明を丁寧に行うとともに、複数顧問等による役割分担制を明確にすることで、合理的でかつ効率的な・効果的な活動を推進する。 ・終了時間を定めた会議の運営により、校務の効率化を図る。 ・職員会議等の会議時間を短縮するために、タブレットを使用することで、書類の電子化(ペーパーレス)をさらに推進する ・出欠連絡、アンケート等において、さらに ICT を活用し、業務の軽減を図る。	ア) 超過勤務時間が月 80 時間を超える教職員を年間で 10 名以下とする。 イ) ・学校教育自己診断(教職員/R6新設)「校務効率化(部活動を含む)に向けて学校全体で取り組んでいる」(仮称)において、肯定率 80%をめざす。 ・学校教育自己診断(教職員 18)で「校長はリーダーシップを発揮し、教職員の意見が反映された学校運営に努めている」の肯定率 80%以上を維持する。 [81.6%] ・ストレスチェックにおける健康指数を前年度より下回る。 [93]	ア) 超過勤務時間が月 80 時間を超える教職員 12 名。(実数4名) (△) イ) ①学校教育自己診断で「公務効率化に向けて学校全体で取り組んでいる」の肯定率 79.2% (△) ②「校長はリーダーシップを発揮し、教職員の意見が反映された学校運営に努めている」の肯定率 87.5% (◎) ③ストレスチェックにおける健康指数 [87] (◎) ・全校一斉定時退庁日を原則、毎週水曜に設定。 ・欠席、遅刻連絡を ICT で実施。 ・時間外の外線電話受付中止。 ・会議資料のペーパーレス化で、平均して職員会議時間が平均 30 分短縮実現 ・伝達事項のオンライン共有(学習支援クラウドサービス、ライデンメール) ・ICT 環境の整備(首席管理) ・アンケートの電子化及び保護者へ文書配布のデジタル化(学習支援クラウドサービス 生徒、保護者) ・会議場所の予約システムの電子化